

2024年3月26日(火)13-14時

『建築BIM』及び『建材・設備EPD』合同説明会

主旨説明

『建築BIM』及び『建材・設備EPD』の重要性

東京大学大学院新領域創成科学研究科

社会文化環境学専攻・教授

清家 剛

合同説明会開催の主旨

- ・政府において、
デジタル化の推進／脱炭素達成に向けての活動の推進
が盛んに行われている。
 - ・建築分野においても盛ん
 - － 建築BIM推進会議（国土交通省）
 - － ゼロカーボンビル推進会議（IBECs）
 - ・両者の目的は異なるが、実施に当たっては、
建材・設備に係る情報の取り組みが必須。
 - － 建築BIMにおける建材・設備に係る属性情報の整理
 - － 建築の評価における建材・設備の
製造時のCO₂排出量（エンボディドカーボン）の算定
- 将来的には、両者の連携が重要
(BIMの普及／建材の脱炭素に係る情報のBIMへの組込)

合同説明会開催の主旨

- **BIM**: Building Information Modelingの略
 - コンピューター上に作成した3次元の建物のデジタルモデルに様々な属性データを追加できる。
 - 建築の設計、施工から維持管理までのあらゆる工程での情報活用ができるツール
- **EPD**: Environment Product Declarationの略。
 - 製品環境宣言。
 - 数値で定量化した製品の環境情報を第三者が検証したもの
- **PCR**: Product Category Ruleの略
 - EPDのための各製品ごとの共通の算定基準
 - 同一商品又はサービスの種別ごとにつくるの共通の基準

合同説明会開催の主旨

- ・建材・設備メーカーでは、両業務の社内での担当部署が異なる。
 - －それぞれの情報共有が重要
- ・現在より具体的な検討が進んでいる。
 - －建築BIMにおいては属性情報の標準化等の検討
 - －建築物のエンボディドカーボンにおいては建材・設備カーボン表示 (EPD) データの収集・整備等が検討されている
- ・建材・設備メーカー等の今後の対処方針の検討に資するために、この機会に、両者の制度設計に関する動向を共有することが有意義と考え、合同説明会を実施する。

協会の取り組み

「建築BIM検討会議」(令和3年設置)

委員長 : 清家 剛 東京大学大学院教授

副委員長 : 松下 佳生 YKK AP専門役員

大学関係 : 志手 一哉 芝浦工業大学教授

メーカー委員

オブザーバー : 国土交通省建築指導課、経済産業省住宅産業室

事務局 : (一社)日本建材・住宅設備産業協会

- ・建築生産・維持管理プロセスにおいて、部品メーカーの立場から、BIM活用のための課題を整理し、適切なかかわり方を提案していくことが必要。
- ・EPDに対応した活動はまだないが、協会を通して委員会からヒアリングを受けている状況。

本日のプログラム

①主旨説明 清家 剛（東京大学大学院教授）

②建築BIM

演題②-1: 建築BIMに関する取組状況について

[講師] 吉田 哲 氏 (株)日建設計)

演題②-2: 属性情報の標準化の検討状況について

[講師] 三戸 景資 氏 (清水建設(株))

③建材・設備EPD

演題③-1: 建築材料・生産におけるEPD

[講師] 磯部 孝行 氏 (武蔵野大学講師)

演題③-2: EPDデータ収集・整備の方向性と建築BIMとの
連携について

[講師] 清家 剛（東京大学大学院教授）